讀賣新聞

2007年(平成19年)1月18日 木曜日

阪神大震災から12年

高層ビル ヘリで救出訓練

多摩

阪神大震災から12年となった17日、多摩市落合のベネッセコーポレーション東京本部の屋上ヘリポートで、警視庁機動救助隊、航空隊、多摩中央署などが、ヘリコプターを使って、震災被害時のビルからの負傷者などの救出訓練を行った。

訓練は、阪神大震災時に高層ビルに閉じこめられて犠牲になった人たちが多かったことを教訓とし、ヘリコプターで屋上からけが人などを救出する事態を想定した。

警視庁はビルに見立てた工作物を作ってヘリによる訓練を行うことが多いが、今回は実際に高層ビルを使った。地上約116㍍の屋上ヘリポートでは、常に強い風が吹いているため、パイロットや救助隊員の技術向上につながるという。

訓練に参加したのは同署員ら計約20人。立川市の警視庁飛行センターから飛び立った大型ヘリコプター「おおぞら2号」がごう音を響かせて屋上ヘリポートに飛来、屋上の約15㍍上空で停止する。横風を受け、安定しにくいヘリコプターからロープが垂らされ、固定されると、救助隊員が機内から降下し、けが人役の署員を抱きかかえながらつり上げた。この日は、こうした一連の作業が2回繰り返され、手順通りに行われたかどうかが確認された。

また、同ビル近くの多摩センター三越の7階の新都市センターホールから、この訓練の様子を防災ボランティアのメンバーら約50人が見守った。

同ホールには、新潟県中越地震などの被災地の写真パネルも展示され、ボランティアらは、道路などが崩壊した現場写真を真剣な表情で見つめていた。

同署の鎌田邦昭副署長は「将来、地震は起きるでしょう。日ごろからの訓練が大切です」と話していた。

(上)ビル屋上のヘリポートで救出、救助訓練を行う機動救助隊員ら(下)多摩センター三越では新潟県中越地震などの被災地の写真パネルが展示された